

# 核兵器廃絶・禁止へ大きく確かな一歩きづく ～ NPT再検討会議・ニューヨーク行動～

京都原水協事務局長 小杉 功

5年に一度、ニューヨークの国連本部で開かれるNPT(核不拡散条約)再検討会議(4月27日～5月22日)の開会に合わせてとりくまれた核兵器のない世界のための国際行動デー・NPTニューヨーク行動に



「核兵器全面禁止のアピール」署名の提出、マンハッタンパレード(写真左)、各国政府への要請行動、アメリカでの署名行動などにとりくみました。私たちの行動は、NPT再検討会議に影響を与え、核兵器廃絶への大きく確かな一歩を築いたと確信します。

## 草の根の力・核兵器廃絶を 願う633万の署名を提出



日本原水協代表は、署名を託された核兵器全面禁止の願いをNPT再検討会議に伝え、反映させるために、

この署名をNPTの重要な柱を強力で再認識するものとして歓迎します」と発言(写真上段左)。同じく署名を受け取ったアンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表は、「市民社会の力は私たちの最大の資産の一つです。署名をされた一人ひとりの方に感謝します」と述べました。



会議冒頭で紹介された潘基文国連事務総長のメッセージは、署名の役割を高く評価し、市民社会との連帯を各国政府に呼びかける

に伝え、反映させるために、国連上級代表とNPT議長に、核兵器廃絶の思いを託した「核兵器全面禁止のアピール」署名、663万6205人分を提出しました(写真右)。この中には京都の署名15万3961人分が含まれています。署名を受け取ったタウス・フェルキーNPT議長は、「市民社会グループからの署名は、核兵器廃絶という共通の目標に真に貢献するものです。軍縮というのは、各国政府だけ

の活動ではありません。私はこの署名をNPTの重要な柱を強力で再認識するものとして歓迎します」と発言(写真上段左)。同じく署名を受け取ったアンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表は、「市民社会の力は私たちの最大の資産の一つです。署名をされた一人ひとりの方に感謝します」と述べました。

## 京都からのアピール届ける 瀬戸内、益川、有馬氏らの



京都では、NPT再検討会議にあたって、瀬戸内寂聴さん、益川敏英さん、有馬頼底さんから京都に

関わる著名な方々16氏が「古くから世界の人のびとに訴える」核兵器廃絶のアピールを発表しました。アピールは、京都が生んだ日本最初のノーベル物理学賞受賞者の湯川秀樹博士の人類と核兵器は共存できないとの主張を紹介し、「核兵器廃絶条約の早期締結の道が切り開かれること」を呼びかけています。京都の代表は、このアピール(日本語・英文)を国連代表、NPT議長、日本政府代表部(写真右)、世界のNGO、アメリカ市民に届けました。

## 核兵器の非人道性を告発し、法的禁止を迫る

会議では、核兵器の非人道性を告発し、禁止の法的枠組み(核兵器禁止条約)を求め声が高まりました。

昨年12月に核兵器の人道的影響に関する国際会議をひらいたオーストリアは、核兵器使用がもたらす非人道性を告発し廃絶を求め「共同声明」に日本を含む159カ国が賛同したことを発表、一般討論でも法的禁止を求める「オーストリアの誓い」に80カ国が賛同(日本政府は不賛同)していることを明らかにし、核保有国に廃絶への行動を迫りました。



一般討論では、新アジェンダ連合を代表して

てニュージーランド、非同盟諸国を代表してイラン、核保有9カ国を国際司法裁判所に提訴したマーシャル諸島共和国、核兵器廃絶に熱心にとりくむブラジル、メキシコなどが発言、核兵器廃絶・禁止を訴えました。

NPT再検討会議後初の世界的な行動となる被爆70年・原水爆禁止2015年世界大会は、NPT再検討会議の審議、結果を受けて、これまで発展させてきた世界的共同と草の根の世論・運動をさらに広げ、核兵器廃絶への新たな展望を切り開く歴史的な大会となります。

核兵器廃絶への大きく確かな一歩を築いたニューヨーク行動の成果、署名の威力を生かすきと語る報告会を旺盛に開き、その力を被爆70年の平和行進、世界大会へ結集しましょう。世界大会を目的に提起される予定の新たな国際署名にとりくみましょう。日本の原水爆禁止運動の責務として、「核抑止力」に固執する日本政府に対し、被爆国の政府としての核兵器廃絶へのリーダーシップと非核三原則の厳守・実行、「戦争立法」の撤回を求めるとりくみを草の根からひろげましょう。

(この原稿は、5月16日、ラボール京都で開催された京都原水協定期総会の前、NPTニューヨーク行動報告会を基調報告をした京都原水協事務局長小杉功さんが加筆修正されたものです。)

## NPTから被爆70年・原水爆禁止世界大会へ